林業事業体レポート File 01

関川村森林組合

【岩船郡関川村】

恵まれた地質が育んだ良材
機械化で地域の担い手を確保

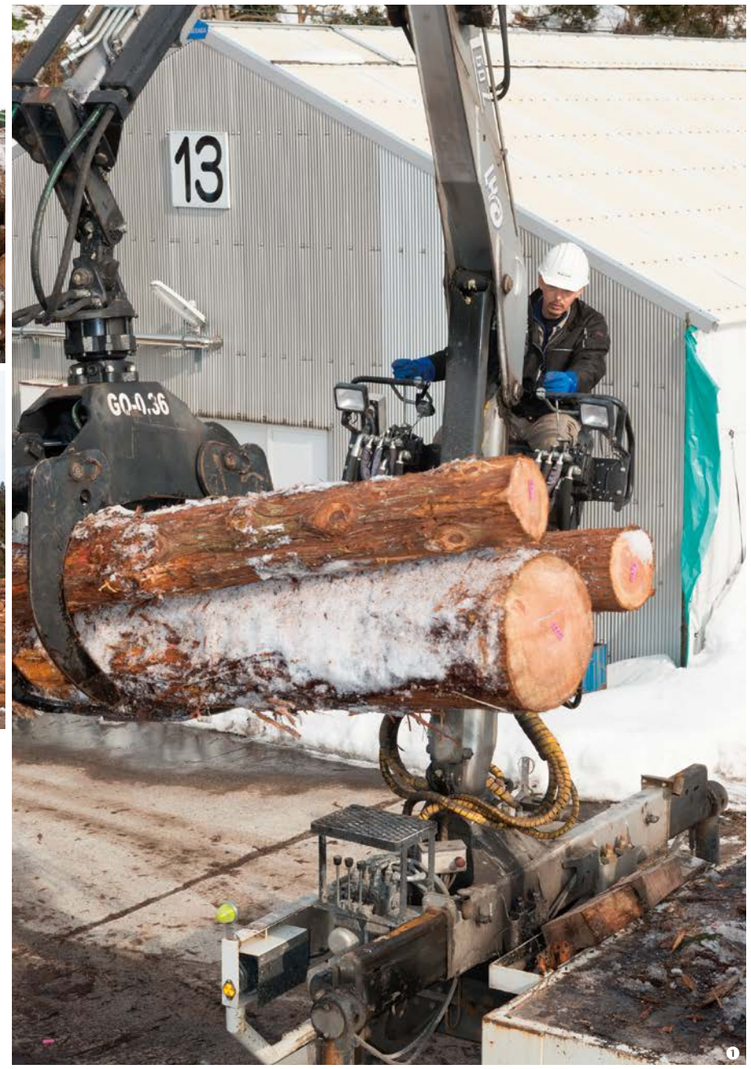
❶胎内市荒井浜森林公園で松くい虫の被害を受けたマツの伐倒駆除作業中。公園内には重機が入れないので全て手作業で行われる　❷左から現場を案内してくれた林産課主任の松田晃太さん。森林技術員の高橋保さん、吉田敬司さん、佐藤栄次さん、板越弘幸さん　❸倒した木は、1メートル位の長さに玉切り・集積後、ビニールで覆い、薬剤でくん蒸する

総面積の林野率が87.6%という自然豊かな関川村。中山間地だが比較的積雪量も少なく、風当たりも強くない土地なので、根曲がりや腐れのない、色も良い木が育つという。地質、気候に育まれた"素直な木"は、「使いやすい」と高評価。常に注文に迅速に対応できるよう、土場では毎日、山から運んだ材を規格ごと、用途ごとに選別するなど、信頼のブランド化に努めている。

平成5年からは間伐促進のために機械化を推進。現在はグラップル付バックホウ3台、プロセッサ1台、スイングヤーダ1台、フォワーダ3台をそろえる。森林技術員は素材生産を行う林産班と森林整備を行う造林班に分かれ、林産班が高性能林業機械を使って利用間伐のための伐採・搬出を担当。機械化により若手スタッフも効率よく仕事ができるようになり、生産量も上がった。資格取得など人材育成にも積極的だ。今、村では平成27年の稼働を目標に木質バイオマス発電事業に取り組んでいる。森林整備の促進につながる事業と組合がどう関っていくか、期待が高まる。

❹プロセッサの利かない部分は尺棒を当て、長さをそろえて玉切りにする
❺グラップル付プロセッサで最高速の枝払い・玉切りを実現

関川村片貝地区。伐った材をプロセッサで造材する作業中。材はトラックに積みやすいように写真手前の道路側にまとめている



❶入社してすぐに重機の資格を取得。5ケ月目にしてグラップル付トラックを操る、オペレーターの織田憲一さん。前ページの片貝地区の現場で集荷してきた材を仕分けする　❷材は３メートル、４メートルなど、長さや用途ごとに選別して管理する　❸取材中にも何台もの大型トラックが出入りし、材を積んで出ていく。0.13ヘクタールの土場は平成23年に舗装工事が行われた

❹国道沿いにある大きな看板は、シイタケ生産も行う、関川村森林組合のキャラクター　❺「あらかわしいたけ」は年間約450ｔ生産。県内でも有数の生産地として知られる

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

安全管理に重点を

小池 紀浩 さん

年齢：45歳　林業経験：15年

Koike Norihiro

組合に入ってからはずっと林産班で、主に伐採の仕事を行ってきました。どの現場でもそうですが、この仕事は危険がつきもの。常に緊張の連続です。事故を起こさないように安全管理に重点を置いて、細心の注意を払って仕事に臨んでいます。木登りが得意なので、年に何年かは特殊伐採を担当することもあり、良い経験になります。今後も幅広く仕事を覚えたいですね。

ずっと続けたい仕事

横山 友幸 さん

年齢：36歳　林業経験：12年

Yokoyama Tomoyuki

結婚をきっかけに関川村に来ました。もともと自然が好きなのですが、関川村は山と川に挟まれた自然に恵まれた良いところなので、良い仕事に就いたと思っています。技術が身に付いてくると仕事もどんどん面白くなってきますね。うちの職場は若手が多いので、話しが合うところも楽しいです。みんなで仲良く、楽しく、組合を盛り上げていきたいと思っています。

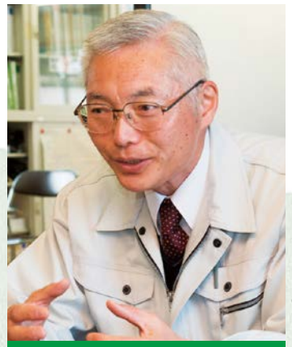
【事業体Data】

関川村森林組合

住所／岩船郡関川村大字上関1021番地3　電話／0254-64-1249
設立／昭和36年　資本金／2,520万円
従業員数／30人（森林部門23人）
勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／関川村
主な従事業務内容／森林整備、木材生産販売、生シイタケ販売

【事業主コメント】

近年は再造林や新たな植林が少なくなっているのが現状です。将来的に長続きさせるには植林や育林を進めて行く必要がありますし、職員や作業員の待遇改善も重要な課題と思っております。当村は農業が基幹産業でこれと言った職場も少ないので、林業は地元の大事な産業と捉え、前向きに取り組んでいきたいと思っています。



関川村森林組合
代表理事組合長 **平田広**